

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	7月	16日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰籬	東辻			
取材対象先	五條市：生蓮寺の地蔵菩薩坐像附 胎内仏、阿弥陀如来立像				

所在地	五條市二見7-4-7				
所有者(取材 対応者)名	生蓮寺(生蓮寺 高畑公紀住職)(個人情報守秘)		連絡先 0747-22-2218(生蓮寺)		
	PCアドレス <a href="https://www.ozizou.jp/">https://www.ozizou.jp/</a>				
取材申込	申込先・行政名など：五條市教育委員会事務局文化財課				
市町村 指定文化財	彫刻	2 軀	地蔵菩薩坐像附 胎内仏1軀、阿弥陀如来立像 2軀とも 1991(平成3)年6月21日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	指定理由不明 地蔵菩薩坐像(室町時代) 附胎内仏(平安時代) 阿弥陀如来立像(鎌倉時代)				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂の周りに消火器と献灯台の所に火災の注意書きがある。	ろうそく・線香の周りが火災が発生しやすい場所なので対策はなされていると思う。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	イノシシ・アライグマが出没するが、墓所まで本堂には来ない。檀家の方が墓所にケージや罠を設置してくださっている。シロアリの被害で本堂を修復したこともある。レンコンを鳥などに狙われる恐れがある。	特に心配はない。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	住職が蓮の研究者で生命科学の博士号を持っておられる。寺は晴れ祈願と子安祈願の地蔵菩薩をまつり、夏になると蓮が咲き誇り観光寺院としても十分成り立つ。また檀家数も現在200戸とかなり多く檀家寺としても成り立つ。どの寺でも同じだが40年後には檀家数が半分になると予想されるが、寺の継承に関しては問題がないと思われる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

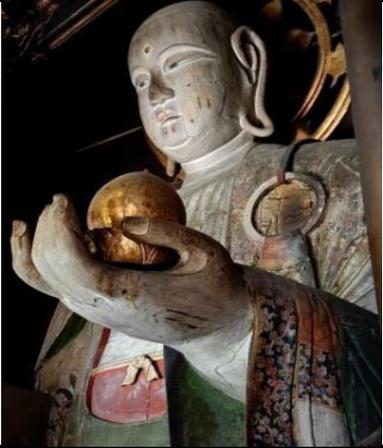
住職はクラウドファンディングを用いてインドやネパールで祇園精舎や釈迦生誕地で当時(2000年前)の蓮を開花させたり、youtubeで蓮和尚(ハッシー)の名前で蓮の栽培の仕方やお寺の様子を知らせたり、メルマガを発行したりと様々な先駆的な活動をされている。若い住職の積極的な活動に期待したい。

市町村指定文化財取材票<<裏>>①

取材日	2024年	7月	16日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰籐	東辻			
取材対象先	五條市：生蓮寺の地蔵菩薩坐像附胎内仏、阿弥陀如来立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 地蔵菩薩坐像附胎内仏1軀

文化財 (正面写真)	(角度を変えて)
	

脇侍 (掌悪童子と掌善童子)

本堂

	
--	---

文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

本寺の本尊、像高328cm、木造(表面は木の板を張り付けている)。1570(永禄13)年の銘が胎内背面にある。創作は平安時代初期であろうが、火災や修復により作り直され現在の仏像は室町期とされる。晴れ祈願、妊娠、安産の御利益がある。向かって右に大きな掌善童子、左手に掌悪童子を従える。地蔵三尊像は数が少ない。

創建については不詳。伝承によると平安時代初期、第52代嵯峨天皇が皇后の安産祈願のために小野篁に命じて地蔵菩薩坐像を安置したのが起源とされ、その後弘法大師が高野山への道中に立ち寄り、胎内に地蔵菩薩立像を安置して晴れ祈願をしたと伝えられている。本堂は270年前に建て替えられ県指定の文化財である。山号「寄足山」(よらせざん)はその故事によるものである。

